

社会福祉法人福島更生義肢製作所 令和4年度事業計画（案）

法人本部

1. 運営目標

- ① 「利用者様とともに歩む未来」をスローガンとします。
- ② 地域に根差した社会福祉法人として積極的に地域貢献に取り組みます。
- ③ 利用者様の目線に立った業務を行うよう指導していくとともに、福祉人材としての自覚を持つよう促していきます。
- ④ 新型コロナウイルスについては、社会の状況を見極め柔軟に対応することとします。

2. 物品購入

- ① 先端技術習得に向けた物品の購入を進めます。
- ② 突発的な出来事による修繕や、物品の入れ替えについて、随時行うこととします。

3. 研修事業

- ① インターネットを活用した研修事業を行います。
- ② 本所職員と出張所職員合同の所内研修を随時開催します。
- ③ 福島県社会福祉協議会主催の研修事業に積極的に参加し、福祉人材としての自覚を醸成します。
- ④ 日本義肢協会、日本シーティング協会、テクノエイド協会など、補装具関係団体の研修事業に職員を派遣し、所内においては、伝達講習を行います。
- ⑤ 各種学術会議に職員を派遣し、所内においては伝達講習を行います。
- ⑥ 義肢装具士養成校から生徒さんを受け入れます。

4. 地域貢献事業

- ① 県内の各種団体と連携し、補装具の無償メンテナンスを行います。
- ② 県内の各種支援学校と連携し、生徒さんのキャリア教育に貢献します。
- ③ 補装具の無償貸し出しを実施し、制度の対象とならない方たちの社会復帰を助けます。
- ④ 県内医療機関と連携し補装具の安価な提供を実施し、利用者様の負担軽減に努めます。

本所業務部門

1. 一般的業務（治療用装具関係）について
 - ① 病院出張については、各方部の基幹病院を中心に、きめ細かな業務の展開を図ります。
 - ② 営業面で即戦力が期待できる、人材の中途採用による人員補充に取り組みます。
 - ③ コロナウイルスに対する、感染予防を念頭におき業務を行います。

2. 手帳交付（更生用義肢装具）に関する業務について
 - ① 更生用装具に関しても、コストの関係上他の補装具業者が引き受けられない、少額な依頼について積極的に引き受けるなど、引き続ききめ細かな対応を継続していきます。
 - ② 更生用装具の製作は、自宅訪問、行政や関係者とのやり取りといった、大きな負担が職員個人にかかるので、業務量に見合った、適正な割り振りに努めます。
 - ③ 更生用補装具担当の中途採用職員を、令和 2 年度において 1 名増員できましたので、今まで以上にウイングを広げ、障害を持った人々の自立を支援していきます。

3. コストの縮減について

- ① 郵便局を利用した補装具費の支払いや、更生用装具の自己負担金の支払いについて、今まで手数料を法人負担としてきましたが、利用者様負担とし、法人のコスト縮減を図ります。
- ② スポット的な業務や、売上げが少額な業務について、出張旅費や運送費を請求していくことについて研究を進めます。

4. 売上目標について

- ① コロナウイルスの影響は続くと想定します。
- ② 一般的業務の売上げは、労災補償による売上げを含め、月平均千百万円を目標とし、年間で1億3200万円を確保します。
- ③ 手帳交付関係の業務については、車椅子・義肢・装具・日常生活用具などを合わせ、月平均450万円を目標とし、年間5400万円を確保します。
- ④ 一般業務の売上げ、手帳交付関係の売上げを合わせ、年間で1億8600万円の確保を目標とします。

本所義肢装具製作部門

1. 現状について

- ① 軟性コルセットや靴型装具の製作技術者は充足しています。
- ② プラスチック成型や筋金加工を要する装具については、少人数で製作を行うこととなります。

2. 少人数で補装具製作を行うことについて

- ① 営業から製造へ引き継ぐ際の、報告・連絡・相談は当然のこととして、職員間のコミュニケーションを、より以上に充実させ、製作もれや製作過程におけるミスが起きないようにします。
- ② 裏打ち加工が済んでいるマジックバンドや、接着剤塗布加工済みのクッション素材など、加工済み素材の採用を検討しま

す。

3. 製作技術の向上について

- ① インターネット配信による学術会議や、各種セミナー等への参加を促し、技術や知識の向上を図るようにします。
- ② 側弯矯正装具について、自発的に学習・研究を行うよう指導し、より多くの職員が製作に携わるようにします。
- ③ 最低一名の職員が筋金加工及び溶接の技術を習得できるよう、製作工程の配分を行います。

4. 工場内で作業を行う上での重点事項について

- ① 安全に配慮し作業を行います。
- ② 使用した工具は元の場所に戻します。
- ③ 工具や機械は大事に使いこまめに手入れを行います。
- ④ 共同で業務を行う場所については、使用する都度、清掃、整理・整頓を行うこととし、次に使う人が作業しやすい職場環境とします。
- ⑤ 日々の整理整頓を徹底します。

5. 物品購入について

- ① カラーリングの幅を広げるため、粉体塗装用の流動槽を一基追加導入します。
- ② エアー式の工具を使用するための設備を導入します。

出張所・会津製作所

1. 営業業務

- ① コロナ禍の現在、売り上げの減少を最小限に抑えるため、今まで以上に会津地域の医療と福祉の向上に寄与することを念頭に業務遂行いたします。
- ② 福島県立医科大学会津医療センター、会津中央病院、竹田総合

病院を中心とした営業を展開するほか、いわき、郡山、須賀川、白河地方における業務も強化します。

- ③ 本所・福島製作所と情報の共有とコミュニケーション深め、効率的な営業手配を実現します。
- ④ 年間歳入予算については、7,200万円を目指します。

2. 福祉活動

- ① 会津地方全域の施設及び在宅の利用者を対象に、義肢、装具、車いす、日常生活用具の無償点検や、使用状況に応じた装着訓練等を定期的実施し、地域に密着した福祉活動を行います。

3. 製作業務

- ① 積極的にウェブセミナー等に参加し、知り得た情報、知識を生かしより良い製品を提供していきます。
- ② 工場の整理整頓を徹底し、効率的に製作業務を行える環境づくりします。